

社会医療ニュース

社会医療研究所

〒101-0047
東京都千代田区内神田1-3-9
KTⅡビル4F 日本ヘルスケアテク/株内
電話 (03) 5244-5141 (代)
FAX (03) 5244-5142
E-mail: syakairyou-news@nhtjp.com
HP: <https://syakairyou-news.com/>
定価年間 6,000円
月刊 15日発行
振込銀行 三菱UFJ銀行
京橋支店 (023)
普通口座 1712595
発行人 小山 秀夫

社会医療ニュース600号を達成した 社会医療研究所設立50周年からの挑戦

所長 小山 秀夫

おかげさまで社会医療研究所は創立50周年迎えることができました。岡田玲一郎先生から研究所を受け継いで68か月が経過しましたが、これは読者の皆様、広告主そして熱心にご支援いただいている支援者の先生方、そして寄稿者の皆様やスタッフのおかげです。心よりお礼申し上げます。

『社会医療』には確立された学説や教科書がなく、この用語も一般的に認知されていませんし、根拠のある学術論文も存在していません。岡田玲一郎ら創設メンバーは、「医療は社会の一部なので、社会から医療を考える必要がある」と話していました。予防や健康増進、リハビリテーション、アフターケア、在宅サービスなど幅広い領域も医療サービスに含めるべきだという意見は、過去の社会医療ニュースにも記載されています。結果的に老人医療費の増加への対応は、予防と健康づくりを壮年

期から進めることや、医療費を

国・自治体・保険者が共同で負担し、公平に医療を提供するとういう考えに集約されました。また、1982年に公布された老人保健法により、40歳以上の全住民に生活習慣病（当時は成人病）の予防と健康診断を含む総合的な保健サービスが導入されました。

そして、2000年の公的介護保険制度は、老人や障害者の福祉の大きな部分を引き受け、介護を新しい社会保険として包含しました。その後の回復期リハビリテーション、看護必要度、介護保険の食費・居住費の利用者負担、地域包括ケアシステム、地域包括ケア病棟、介護医療院、総合病院体制加算と急性期体制加算の導入、地域包括医療病棟制度の導入などの改革が進みました。

この半世紀の社会の変化と医療の変貌を本紙は冷静にみつめてきました。そして、社会の変化を敏

感に察知するとともに、医療現場の声を反映させてきたのです。医療現場の今を把握するためには、現地現物現実現在のフィールド・ワークが必要です。

社会医療法人制度登場と 社会医療観点の無関係性

06年の医療法改正によって創設された「社会医療法人」制度での「社会医療」という用語は、一般的には医療制度や医療法人の中でも、公益性の高い医療活動を指す文脈で使われ、これが「社会医療」の概念と深く関わるようになりました。

その意味合いは①地域社会に不可欠な医療の提供、②公的医療機関の代替的役割、③医療の安定化と効率化、などということになります。①は、たとえば救急医療、へき地医療、災害時医療、小児医療、周産期医療など、採算が合いにくくても継続的に提供すべき医療という意味です。③は、経営の透明性を高め、収益事業を通じて医療への再投資を行うことで、地域医療の持続可能性を確保することを意図しています。

社会医療法人は、公益性が高く、本来業務による利益は非課税とされ、収益事業には軽減税率が適用されます。また、固定資産税なども非課税になるなど、税制上の優遇措置が認められています。

以前からある特定医療法人は、租税特別措置法に基づき国税庁長官から認定される法人です。医療の普及と質の向上を目的に活動しており、持分なしの法人であることが求められます。こちらも法人税の軽減や、看護師養成施設などの固定資産税免除といった税制優遇が認められます。

「特別医療法人」制度は、医療法改正前に認定されていたものですが、12年3月末に廃止され、新設はできません。このような各種医療法人は、公益性の確保や医療サービスの安定提供が目的で、持分なし法人によって資産移転リスクの低減や運営の透明化が求められています。

このような経緯があり「社会医療」という言葉は、民間法人が公益性の高い医療活動を行い、税制上の優遇を受けている状況をいう場合があるようになりました。

つまり、社会医療法人制度のいう「社会医療」の概念と「社会から医療を考え続ける」という考え方とは無関係で、今後、社会医療観点の再整理と最構築が必要だと思っています。このことを50年目の再スタートにあたり、明らかにして

おきたいです。

広範な社会医学の実態と必要な社会医療の再構築

「社会医療」と類似したような言葉に「社会医学」の領域があります。これは、病気や健康を個人の問題としてだけでなく、社会全体の視点から捉える医学の分野です。つまり、人々の健康状態がどのように社会的要因（経済、教育、環境、文化、制度など）によって影響されるかを研究し、より公平で持続可能な医療や健康政策を目指します。

主な領域は疫学、公衆衛生、医療統計、医療経済、医療社会、法学、環境医学や国際保健です。社会医学は、単に病気を治すだけでなく、病気の根本原因にアプローチし、健康格差の是正や医療制度の改善に貢献します。たとえば、貧困や教育格差が健康に与える影響を明らかにすることで、より効果的な政策提言が可能になります。

これらの社会医学の領域は拡大し、国際的に評価され、研究や実践を通じて世界の健康問題に重要な貢献をしています。社会医療研究所は、このような社会医学の研究成果をベースに、医療現場を探求し、イノベーションや人口・社会構造の変化や政治あるいは文化の変容、そしてDXやAIのこれからを、調査研究します。

社会医学への思い込みが研究 生活継続性確保の原動力です

所長 小山 秀夫

半世紀前の修士論文は、19世紀中葉の英国の公衆衛生活動の中心的行政家エドウィン・チャドウィック（1800-1900）の歴史的文献研究でした。修士論文文学外指導者は当時国立公衆衛生院衛生行政学部長橋本正己先生でした。1961年橋本先生は『衛生行政学序説』で行政学と公衆衛生の理論化を、1968年『地域保健活動—公衆衛生と行政学の立場から』では住民参加型の保健活動を提案。1975年『医療社会学』の翻訳でも社会医学と医療政策の連携に貢献しました。

社会医学の系譜と 労働医学への発展

は、19世紀イギリスの行政に「疾病の社会的決定要因」への理解を導入し、医学と社会制度の関連性を強調したことです。

ドイツの「細胞病理学」の創始者で白血病の初期記述を行ったルドルフ・ヴィルヒョウ（1821-1902）は「医学は社会科学であり、政治は大規模な医学である」と主張し、公衆衛生改革（下水道整備、病院設計、食肉検査など）やチフス調査報告で社会的要因と健康の関係を明示しました。

チャドウィックは功利主義者

ジェレミー・ベンサムの高弟であり、救貧法と公衆衛生改革に貢献した人物です。1842年『労働人口の衛生状態に関する報告書』で、地域ごとの死亡率や疾病率を調査し、貧困層の健康問題が不衛生な住環境や劣悪な労働条件によるものであるとしました。また、登録制度の整備や統計データに基づく政策、下水道や清潔な水の供給の重要性を訴えました。

この報告書は地方自治体に衛生向上の責任を課し、1848年の公衆衛生法制定の基礎データとなりました。チャドウィックの貢献

した。彼の主張は、医師が公衆衛生や社会的課題に積極的に関与すべきだというもので、医療と社会の接点を強調しました。ただし、彼の「社会医学」は一時的な政治的文脈に基づくものであり、衛生学のような持続的な運動には発展しなかったとされています。

戦前の石原修（1885-1947）と暉峻義等（1889-1966）の輝かしい業績があります。日本の社会医学・産業衛生・労働科学の黎明期において、制度設計と実践の両面で極めて重要な役割を果たしました。彼らの活動は、医療と社会の接点を明確にし、戦後の公衆衛生政策の基盤を築くものでした。

石原の1913年『衛生学上より見たる女工の現況』は、紡績女工の結核罹患率の高さを統計的に示し、劣悪な労働環境が健康に与える影響を告発。第一次世界大戦後のパリ講和会議において、労働者の権利保護と社会正義の確立を目的として創設されたILO（国際労働機関）会議に政府委員として参加後、1926年に産業医学会を設立し、戦後の労働基準法の制定に向けた提言もしました。彼は疾病を「社会的構造の結果」として捉え、医学を制度的介入の手段と位置づけました。医療を「現実生活に根ざした実践」として再定義し、社会医学の思想的基盤を形成したと評価されています。

労働科学の創設者といわれている暉峻義等は、1921年に倉敷労働科学研究所の創設と初代所長就任し、紡績女工・農民・開拓民などの生活・栄養・疲労の調査を実施。『産業疲労』などの著作で労働と健康の関係を理論化しました。科学的管理法（テイラー主義）への批判と、日本的労働衛生思想の構築「労働科学」という概念の導入と体系化に貢献しました。

戦時期には産業報国会理事・大政翼賛会国民運動局長を歴任したことで、戦後は公職追放となりましたが、労働科学研究所の再建に尽力されました。彼の労働者の健康を「社会的資源」として捉え、制度的・科学的に保護すべき対象としたこと、そして、疾病・疲労・栄養などを「社会的要因」として分析し、医学と社会政策の接続を図ったことは、高く再評価して欲しいと思います。

倉敷労働科学研究所の創設者は、倉敷中央病院や大原美術館なども創設した倉敷紡績の二代目社長大原孫三郎です。1921年、大原は自身の私財を投じて、岡山県倉敷市の万寿工場内にこの研究所を設立しました。設立の背景には、「労働をより人間的に」という理念のもと、医学・心理学・工学・社会科学などを融合した学際的研究を推進。倉敷労働科学研究所は、現在「公益財団法人大原記念労働科学研究所」として活動を

継続しています。

社会医学の2世紀の系譜は
国立保健医療科学院が継承

社会医学は、女工の結核問題や細民街の調査を通じて、労働環境と健康の関係を明らかにし、公衆衛生の礎を築きました。1959年設立された「社会医学研究会」は、厚生省医務局長・厚生統計協議会長を歴任し、65年から7年間国立公衆衛生院長を務められた曾田長宗らによって設立されました。公衆衛生とは異なる視点から健康問題を社会的に捉える学問として発展させようとしたのです。

関西大学社会安全学部の高島毛敏雄教授は「社会医学は、健康問題を社会的に理解し、その解決を図ろうとする学問である」と定義されています。社会医学は、医学と社会科学の融合領域であり、社会構造の変革を通じて健康を守ることを目指す、大変興味深い研究領域なのです。

国立公衆衛生院は02年に国立医療・病院管理研究所等と統合され国立保健医療科学院として再出発しました。小山は06年まで経営科学部部長を務め、その後大学に転出しました。国立保健医療科学院は公衆衛生学と社会医学そして病院管理学の系譜を受け継ぐ唯一の国立試験研究機関です。社会医療ニュースともども末永くご支援くださいませ。

有事斬然（ゆうじざんぜん）

第67回 病床数適正化支援事業を公立・公的病院への単なる赤字補填として給付するのか

医療法人社団 和楽仁 芳珠記念病院 副理事長 一戸 和成

2025（令和7）年6月11日、自由民主党、公明党、日本維新の会は3党合意を発表し、約11万床の病床を削減することを前提に、2年間で1兆円の医療費を削減できるとする試算も公表した。しかし、改革の実効性や影響については見極める必要がある。病床を1床削減すると約410万円が給付される病床数適正化支援事業と公立病院への地方財政措置も含め、病床削減のあり方や病院経営の評価について考えてみたい。

○事業の対象設定に問題あり

6月27日、厚生労働省は病床数適正化支援事業の第2次内示を通知した。4108床分、168億円余りが給付される。4月11日には第1次内示（7170床分）がされている。第1次と第2次とで配分対象に変更があり、「3年連続赤字」または「2年連続赤字かつ24（令和6）年度に病床削減済」から「2年連続赤字」に緩和され、一般会計の繰入等がある公立病院も対象となった。この変更が問題である。日医総研ワーキンググループ「民間病院をめぐる事業承継・M&Aの最新動向」でも、最

近の病院経営に対する見立てのなかで、資金繰りのリスク増大について記載があり「2期連続赤字の場合すぐに銀行が貸し剥がしをするようなことはないとしても、新規融資は厳しくなるとの声が、実際に銀行関係者からも聞こえてきている」とし、民間病院の資金繰りが厳しくなっていることを示唆している。このように2期連続経営赤字は、金融機関から継続性に疑問を投げかけられる重要な経営課題であるにも関わらず、民間病院を念頭に置いていた第1次内示の条件に比べ、資金繰りのリスクが少ない公立病院を対象とした第2次内示の条件が緩和されていることは、厚生労働省が、民間病院の資金繰りリスクを理解していないのではと疑わせる。

また、第2次の配分にあたり、都道府県に対して「病床削減を行う医療機関への支援にあたり、新興感染症の確保病床であるか否かなど、地域の医療提供体制への影響を踏まえた上で判断いただくよう依頼」しているが、地域医療構想の「キモ」である再編統合や機能分化を進めるための政策誘導に関する基準がないことも問題であ

る。その上、民間病院は経営が悪化すれば、病床数適正化支援事業を利用するか否かに関わらず、自ずとあらゆる経営改善策を実施するが、公立病院では、倒産のリスクが低く、また病院の存廃自体が政治的な問題を孕み、職員も公務員であることから抜本的な経営改善策をとらないことが多い。その時、稼働していない病床を削減するだけで補助金が給付される当該事業を、単なる赤字補填に利用するのは明らかであるのに、配分対象の要件まで緩和し、公立病院の経営責任や赤字要因の真摯な検討や反省もなく給付するのは、砂漠に水を撒くようなものである。

○手厚い交付税による赤字補填

「病院事業の地方財政措置」によれば、公立病院の開設自治体に交付される普通交付税の病床割（72万円×最大使用病床数）については、許可病床削減後3年間は激変緩和措置が講じられ、病床削減しても、削減後の許可病床数以上の交付税が措置される運用になっており、病床数適正化支援事業を併用すれば、削減した病床で補助金と交付税の「二重取り」が可能であるといっている。また、各種の特別交付税についても、最大使用病床数が一時的に落ち込んでも同様の措置が受けられるなど、多数の赤字補填のための措置が存在している。そのため、病床

数適正化支援事業の要件を緩和し、民間病院を差し置いてまで公立病院を補助金の対象にする必要性は感じない。「令和5（23）年度地方公営企業等決算の概要」で、一般会計から8626億円もの繰入金が出されているにも関わらず、23年度決算は大幅な赤字（▲2055億円）を計上している。その上、こうした危機的な経営状況の中でも昨年（24）度決算が過去最大の赤字になった、などの報道を見るに、公立病院の経営改善は全く進んでいないわけで、赤字補填として補助金を投入することは慎重でなければならない。

○経営を視点とした病院評価のあり方

公立（公的）病院の赤字の本質は、言われているような人件費・物価の高騰などではなく、病床稼働率の低下に見合わない人員の過剰配置と、医師も含めた職員の公務員性による、病院の経営状態と連動しない昇給や賞与支給という「人件費コントロールの崩壊」にある。

6月25日の中医協で令和8年度診療報酬改定に向け議論が開始された。そこでは、増大する高齢患者への対応や人口減少を見据えた、特に地方の医療提供体制の維持について論点を提示している。一方、医療機関の倒産が過去最多のペースで推移しているという報道が散見されるなかで、医療政策

を担う医政局が、重要な補助金の交付条件で、何ら政策誘導もかけず、単なる赤字補填として利用しようとするのが明らかなどところに補助金を垂れ流しするようでは、医療提供体制の改革は進まない。「赤字の本質」を内在したまま、病床数適正化支援事業のような赤字補填だけで、公立・公的病院の経営悪化を取り繕うことはできない。経営そのものを抜本的に見直すべきだ。そうでなければ、診療報酬を増額しても赤字は改善しない。抗えない急激な人口減少と高齢化の進展により、いよいよ地方から病院の撤退戦が始まる。その際、真の地域医療構想の検討が始まるのではないかと。医療（法人）が非営利であるということと、公立・公的病院も含めた病院経営が赤字でいいということはイコールではない。今後は、病院の医療機能のみならず、経営に関する何らかの指標をもとに病院の再編統合の検討を進め、また、経営改善のため、医療法人の理事会に外部の専門家や経験者を入れるような仕組みが必要な時期になってくる。

人口減少のなかで、全産業平均よりも平均賃金が低いと言われる医療の世界で仕事をしたいと思う若者に、安心して長く仕事ができる病院がどこにあるのか、経営指標を公表し選択してもらう環境を提示することも重要な論点のひとつである。

経営環境が変われば経営戦略・人材戦略も変わる(55)

一般財団法人竹田健康財団 法人事務局長 東瀬 多美夫

■DXの対象にはどんなものがあるか

DXの対象は、3つあると考える。
1つ目が、組織全般にわたるワークフローのDX、2つ目が、個人が担当する業務のDX、そして3つ目が、学会発表や論文作成といった自己研鑽に関するDXである。

1つ目の組織全般DXは、考え方として、どの職種の、どの仕事を、部分的になのか、それとも全体的なのか、対象範囲を決定したうえで、どの代替化の方法(タスクシフト・シェア、機械化、ICT化、AI化)にするか決定し更に、その仕事を自動化するのか、それともガイドさせるのかを決定する、3つのステップで検討する必要がある。

■DXが新たな価値を生み出す

竹田病院では、DXによる生産性アップに取り組んでいる。

そのうち、入院・退院時の取り組みを図にしたのが下図である。スマートフォン+ポケさば+チームコンパス+生成AIという、これまでになかった新しい組み合わせで、新たな価値を生み出せるか、

に取り組んでいる。

ポケさばは、入院説明・産科説明、健診説明・検査説明において、動画・音声・PDFにより、患者説明を省力化・半自動化する仕組みになっている。

次世代型看護記録システム、チームコンパスは、看護業務使用言語を標準化し、さらに看護計画と記録を標準化し、患者の状態とゴールを可視化することで、看護記録の効率化と均質化を達成し、残業時間を削減する仕組みだ。

メデイカル・ナビは、AIを活用し、入院治療計画書の作成支援、退院サマリーの作成支援、議事録の作成支援等により、仕事の省力化・省人化する仕組みである。

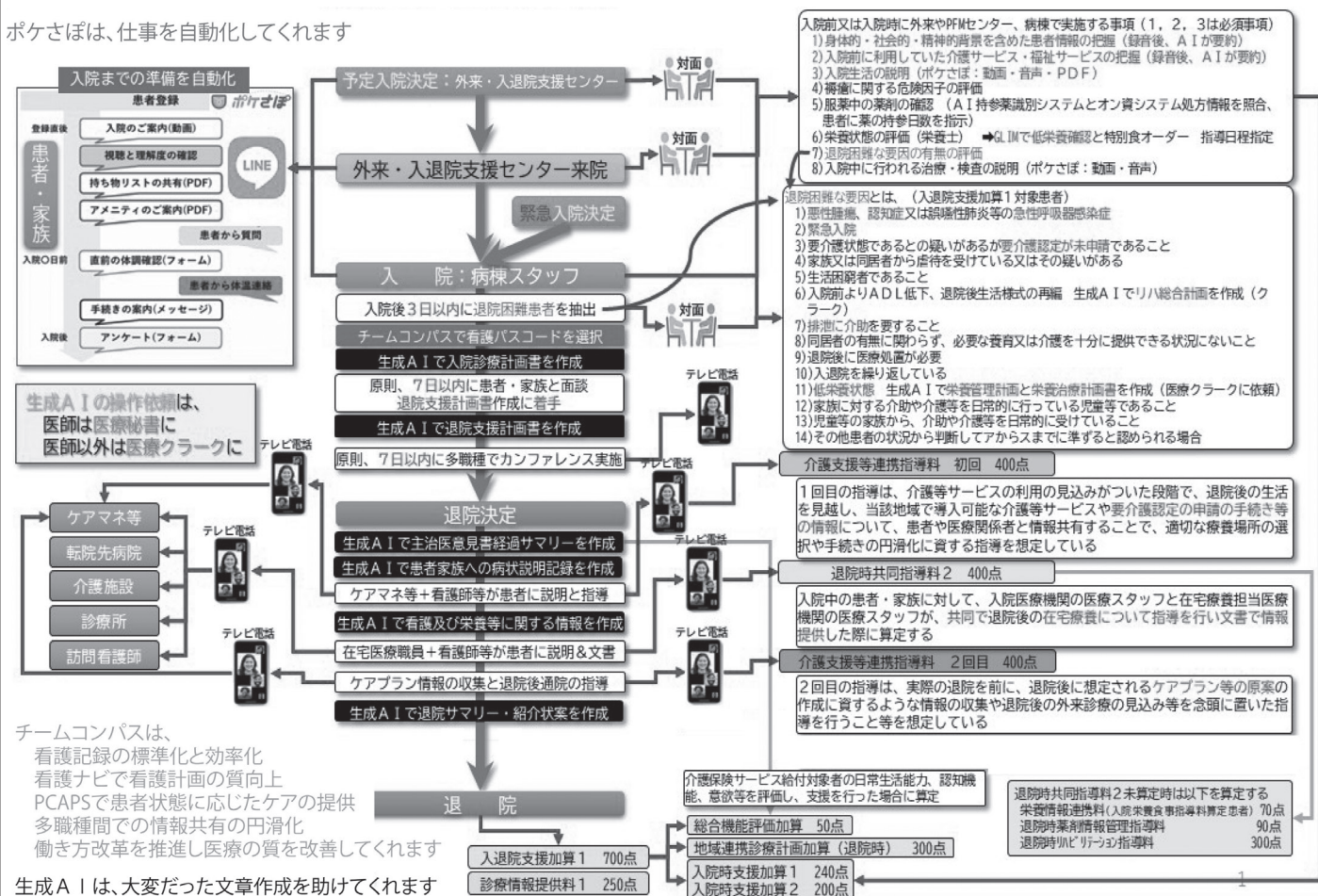
デジタルによって、革新が常態化した組織をDX組織と言っているだろうか。革新つまり、Innovationの常態化である。具体的には、これまでになかった、新しい組み合わせを見つけ出し、それにより新たな価値を生み出すことができると思う。

そのためには、高速な試行錯誤、高速なフィードバック、高速のアップデートを繰り返していく組織をイメージしてはどうか。

DXで生産性アップ+AI活用

入院退院のフロー ポケさば・チームコンパス・生成AI導入で仕事はどう変わるのか

ポケさばは、仕事を自動化してくれます



小山所長の

喜怒哀楽



腹立たしいというより嘆かわしい参議院選挙が終わり、自公政権が大幅に議席を減らし移民排斥自国ファーストなヨーロッパ的極右政党が議席を増やしたりしました。選挙後の自民党内の内ゲバ的混乱は、選挙民が金まみれ宗教集団だよりの政治屋排除という選択をしたということを理解できていないのではないかという疑念が増幅しただけです。

「石破おろし」などという表現はどことなく下剋上の語感が残りますが、とくに少数与党は下野しており、「野党の皆様からよくお話を聞いて話し合いで政策決定する」以外政権として生き延びられませんが。部分連携とか部分共闘などという政治用語があります。が、言いたい放題で責任を取らなくてよい多数野党は少数与党をいたぶっていればよいので政権奪取などといわないほうが得なのでしょう。

日米関税交渉の結果が今後どのようなになるのか正確に理解できませんが、米留学経験もある運輸省（現・国土交通省）出身の赤澤亮正経済再生担当大臣ははじめ交渉団の皆様は2か月のうちに8回の

渡米という強行スケジュールをこなされたことに感謝です。赤澤大臣は、経済財政政策以外に賃金向上、スタートアップ、全世代型社会保障改革、感染症危機管理、防災設置準備などの内閣府特命担当大臣を兼務しているとのこと。夏バテしないでください。

◎老人医療のレジエントたち

シャンパンに酔いしれる真夏の夜の夢のような会合がオークラ東京の桃花林で開催されました。よみうりランド慶友病院の大塚宣夫先生のアレンジで、老人の専門医療を考える会の総会では天本宏会長が再任されました。下関市の光風園病院の木下毅理事長も背骨の手術が成功しておいでになられました。この3名の日本の老人医療のレジエントのスピーチは心地よいものでした。長寿を祈ります。

◎酷暑を映画館で乗り切る

摂氏40度越えの報道だけでも、思考停止状態になります。どこかに行く気力体力金力の低下は閉じこもりの原因になります。今年は「そうだ映画館に行こう」みたいな気分になっています。ご婦人方のオシは戦後から平成にかけての歌舞伎界を舞台にしている『国宝』です。俳優さんのことはあまりわかりませんが吉沢亮、横浜流星、田中泯の各氏は、素晴らしいと思います。

本紙は「ダイヤモンド・プリンセス号」で発生した集団感染を題材にした『フロントライン』を推奨します。20年4月1日に新規開院予定であった藤田医科大学岡崎医療センターは、政府の要請を受けて2月19日未明から乗客・乗員を受け入れ、21日間にわたり隔離・治療を実施しました。病院とは何かとか、看護とはどのようなことなのかということを、改めて深く考えることができます。藤田医科大学スタッフのガッツを讃えましょう。

戦記物の中で強運な駆逐艦『雪風』関連の本は、見事な艦長のリーダーシップ論としてだけではなく極限状況下での組織運営と人間行動の分析のケースとして再読を重ねてきました。太平洋戦争で旧帝国海軍陸軍そして徴用された民間の船舶はことごとく海の藻屑となりましたが、雪風は真珠湾攻撃からレイテ沖海戦そして戦艦大和の最後の出撃「坊ノ岬沖海戦」にも同行し、奇跡的に生還した駆逐艦です。47年7月に戦時賠償艦として中華民国に引き渡され「丹陽」と改名され69年に台風で損傷し、修復不能と判断されて71年に解体。舵輪と錨が日本に返還され、江田島の海上自衛隊幹部学校に展示されています。

8月15日公開の『雪風 YUKIKAZE』は太平洋戦争中に実在した史実をもとに、戦中から

戦後、そして現代へとつながる人々の姿を描いた壮大なヒューマンドラマとして期待しています。戦後は武装を解かれ、復員輸送船として約13000人を日本に送り届けるという役割も果たし、映画では「命を救う艦」としての雪風の姿を通じて、信念・希望・人間性を問いかけているとされています。映画館よ、パワースポットになれ。

◎親友2人が本を出しました

進藤晃さん（日本慢性期医療協会常務理事／日本介護医療院協会副会長）が、一般社団法人日本品質管理学会監修『慢性期医療の品質マネジメント…人生に伴走する医療の確立に向けて』（日本規格協会）を出版しました。本書では「医療全体の質向上のために、慢性期医療の質向上が重要である」という考えのもと、産業界の品質管理や方法論を用いて、品質管理の考え方を医療へ適用することについての取組みを記しています。医療機関のQMSに実装すべき経営機能、経営管理の枠組み、問題解決手法、そして著者の経営する病院での事例に至るまで、医療分野における品質管理に関する幅広い内容が述べられています。

近年では、障害や疾患を抱えた高齢者や障碍者が「急性期よりも慢性期医療における質の向上が望まれる」との認識が、医療界に限らず急激に広まっています。

慢性期医療のオピニオンリーダーである進藤さんの本を、医療に携わる方には是非一読いただきたいです。

丹野智宙さん（一般社団法人慈恵会理事）の著書『新たな事業を開拓する ウエルネス戦略』（幻冬舎）は、ハーバード・ビジネス・スクール（HBS）のエグゼクティブ・エデュケーション・プログラム「OPM（オーナー・プレジデント・マネジメント）」での学びの結果です。実際に青森駅の再開発プロジェクトに参画した著者は、駅ビルの真上に地方初のウエルネスホテルを新たな事業としての立ち上げ、どのように活かしたのかを描いています。

地方都市のなかでも人口減少の影響が顕著な青森県で、医療・介護・観光の分野にまたがる複数の法人を運営する経営者の一人として「地方の再生に何が必要なのか」という自問から確信に至ったのが「ウエルネス戦略」でした。和食や温泉、森林浴など、日本にはウエルネスを支える資源が豊富にあり、既存事業にウエルネスを掛け合わせることで新たな価値を創出する事業を展開できると、丹野さんは力づく主張しています。

進藤さんも丹野さんも長いお付き合いになりましたが、仕事がかたくなるというより、確信みたいな人格がにじみ出ていますね。

アメリカに
渡った視点
医師の

東京慈恵会医科大学小児科学講座 主任教授 大石

A Briefing on
US Healthcare
公彦ニューヨークの地下鉄と
オフィスの2面編成

ニューヨークシティに暮らす人々の生活にとって、縦横無尽に張り巡らされた地下鉄は、切っても切り離せない存在である。

日本にいた若い頃、都市部を生活圏にしていた私には、車は必需品ではなかった。だからこそ渡米を控えた当時、「米国では車が必要になるだろう」と半ば覚悟しつつ、「ようやく自分の車を持てるかもしれない」という小さな夢を抱いていた。だが、結局その夢は今なお叶っていない。

ニューヨークに住み始めてまず驚いたのは、公共交通機関の充実ぶりである。地下鉄の路線は網の目のように張り巡らされ、市内であれば、大抵の場所へ行くことができる。職場近くのマンハッタンに住んでいた頃はもちろん、クイーンズの近郊地域に引っ越した後も、通勤に車が必要となる場面は一度もなかった。高額な駐車場代を考えれば、車を持たずに暮らすという選択はごく自然なものであり、通勤手段という点では東京

とそう変わりがない感覚だった。

1904年に開業された、歴史あるニューヨークの地下鉄では、路線が数字とアルファベットの両方で表記されている。なぜ統一しないのか渡米当初不思議に思ったが、実は複数の民間鉄道会社がつて別々に路線を運営していたという歴史に由来しているという。そのため、今でも車両のサイズや仕様が異なり、路線同士の乗り入れは不可能である。地下鉄の成り立ちを知らずとも、路線の広がり方やホームの造りの違いから、どこかその名残を感じることができる。

1980年代以降、日本の川崎重工がニューヨーク地下鉄の車両の設計・製造に関わっており、私が渡米した頃にはR142形という、当時の最新型車両が大量に導入され始めた。「日本の技術がここまで来ているのか」と、密かに誇らしい気持ちになったことを覚えていいる。とはいえ、たとえ日本製の車両であっても、その内装はまったく異なっていた。座席はすべてプラスチック製で、クッション性は皆無である。おそらく理由

は、布張りの座席では汚れた場合の清掃が難しいからで、実際「布張りの座席なんて絶対に座りたくない」という米国の友人もいた。

また、日本の車掌のアナウンスに独特の口調や抑揚があるように、ニューヨークの地下鉄の車掌たちのアナウンスもまた、非常に個性的だった。モゴモゴとした早口で聞き取れないことがほとんどで、渡米当初の私にはさっぱり聞き取れない。そんな中、R142形に搭載されていた自動音声アナウンスの明瞭な録音音声は、聞き取りに苦労していた私にとって大いに助けとなった。今でもそのアナウンスが自然と口をついて出てくるほどである。当時の車内放送を思い出すたびに、少しずつニューヨークの街に馴染んでいった日々を思い出す。

在米中のほとんどの期間において、この地下鉄が私の通勤を支えてくれた。特にありがたかったのは、24時間運行であること。早朝や深夜でも常に列車が走っており、これがなければ医師としての勤務は成立しなかっただろう。ただし24時間体制ゆえに、日本のように夜間に設備の保守が行えないため、週末には路線の運行体制が大幅に変更されることがある。片側の線路が運休、反対側が急行運転に切り替わり、うっかり乗り間違えると目的の駅を素通りされ大回りを強いられる。さらに急に駅

を飛ばされることもあり、週末出勤の際に何度か冷や汗をかいた。

朝のラッシュ時には車内が混み合うものの、日本の満員電車とは様相が異なる。多くの乗客は無理に乗り込むことなく、次の列車を待つ。私の記憶では、野球観戦客が殺到するヤンキースタジアム行きの路線を除けば、乗客ですし詰めの光景を目にしたことはほとんどない。そんな余裕ある空気感を、寝不足の朝にはありがたく感じていた。

遅い帰宅が当たり前の日々、夜中も走る地下鉄に何度助けられたかわからない。しかし、深夜の突如の運休に注意が必要なものに加えて、夜の地下鉄は昼間とはまったく違う顔を見せる。静まり返った構内に漂う異臭、大きなラットが走り回る線路脇、散乱するゴミ。景気が悪くなると、構内に寝転がるホームレスが増え、清掃が追いつかず、糞尿が放置されている場面にも出くわす。あと少しで靴が人糞に触れそうになり、肝を冷やしたこともある。うたた寝などもつてのほかで、スリの被害に遭うリスクも高い。日本で、酔ったサラリーマンが駅構内や車内で眠っている姿を見るたびに、日本の地下鉄の安全性に驚かされる。

特に深刻だったのは、薬物依存や精神疾患を抱えた人々の存在だ。医療や福祉にアクセスできず、精神的・身体的に不安定な状態で

地下鉄をさまよう姿に、アメリカ社会のひずみを感じた。アメリカ人の先輩から「絶対に目を合わせるな」と言われたその助言は、やがて私の中で日常の自衛の知恵として定着した。突発的に乗客を突き飛ばす事件、地下鉄の屋根で遊んで死亡する若者、構内での発砲事件。日常の足である地下鉄が、時に命の危険と隣り合わせであるという現実もまた、否応なく私の記憶に刻まれていく。

それでもやはり、そこはニューヨークの地下鉄。駅構内や車内ではプロ顔負けの歌や演奏が響き渡り、思わず笑ってしまうような素人のパフォーマンส์も、日常茶飯事だった。車内のポールを使つてアクロバティックなダンスを披露する若者、日本でも有名なボイスパーカッションストとの偶然の出会い、センスの良い案内表示や広告など、楽しい思い出も枚挙にいとまがない。

自身の車を持つ夢は継続中だが、それでも私の鉄道への愛着は変わらない。オフィスには、帰国前に購入した木製のニューヨーク地下鉄のおもちゃ、毎日乗っている黄色のN線と緑の6番線のマークが付いた2つの車両が飾られている。それをふと目にするたびに、スクラブ姿のまま乗っても誰一人気に留めない、あの懐かしいニューヨークの地下鉄の日々が、静かに私の中によみがえるのだ。

これまでリヒャルト・ワーグナーが26年の歳月をかけて完成させた楽劇《ニーベルングの指環》は、北欧神話やゲルマン伝説をもとにした壮大な四部を紹介してきました。

この作品には革新的なオペラ技法として①登場人物、感情、場所、概念などを象徴する短い音楽的フレーズであるライトモチーフ（示導動機）の活用、②「バイロイト祝祭劇場」を建設し、理想的な上演環境を整備した上で、音楽、演劇、舞台美術を一体化した総合芸術の理念を実現。③従来のアリアとレチタティーヴォの区別を廃し、音楽が途

猛暑の日々のオペラ鑑賞の工夫



コードもありませんし字幕付きでエアコンディションは快適、

奏ではなく、物語の語り手となり大規模なオーケストラ編成（ハープ、ワグナーチューバなどの特殊楽器も使用）などとコラボするスペクタクルに特徴があります。

バイロイト祝祭劇場は、リヒャルト・ワーグナーが自身の楽劇を理想的な形で上演するために設計・建設した、世界でも類を見ない特別なオペラ劇場です。1876年に完成し、以来毎年7月末から8月末に夏に「バイロイト音楽祭」が開催されています。

この劇場はオーケストラピットが舞台の下に完全に隠されている構造であるとともに、19世紀まで

のオペラ劇場のような馬蹄形ではなく、扇形の配置で全席が舞台正面を向いているという特徴があります。ただ、エアコンディションの設備がなく座席は高く硬く身長が低いと苦勞します。

気候変動の影響なのか今年のヨーロッパ諸国の夏の気温は高温です。バイロイトのホテルをはじめドイツやフランスでもエアコンディションの設備がありますが、レストランや民家では冷房装置がない場合が多いです。

通常、ヨーロッパのオペラは9月に新シーズンをスタートし、春の終わりまで公演が続き、6月頃

ます。多分、夏の気温上昇やチケット価格の高騰があり、敬遠されているように感じます。日本円換算では、5年前の2.5倍の価格になり高嶺の花です。

さてこうなると夏オペラが楽しめます。この4年間はMETライブビューイングにお世話になっています。これはニューヨークのメトロポリタン・オペラ（MET）の最新公演を高画質・高音質で収録し、日本全国の映画館で上映するプロジェクトです。世界最高峰のオペラを、現地に行かずとも映画館でリアルタイムまたは録画で楽しめる贅沢な体験です。ドレス

気軽にこっそり一人でいけるのが何よりです。

にシーズンが終了します。バイロイト音楽祭のほかザルツブルク音楽祭、エクサン・プロヴァンス音楽祭（フランス）やメルビッシュ湖上音楽祭（オーストリア）が人気です。ペロナの夏オペラ「アレナ・デイ・ヴェローナ」は、世界最大級の野外オペラフェスティバルとして知られ、古代ローマの円形闘技場を舞台に、毎年6月末から8月末に開催されます。

ヨーロッパの夏オペラのチケットは11月ごろからの発売でチケットの争奪戦が話題になります。ここ5年間は取るうと思えば日本からでもゲットしやすくなっています。

小山

ナリコマの急性期病院向けクックチル献立『やすらぎ』でもっとかしこい給食運営を実現！

度重なる委託費の値上げや人材不足など、給食に関するお悩みを抱えていませんか？

こだわりのお食事に各種サービスが標準装備。

献立
28日
サイクル

嚥下能力別
4形態
でご提供

栄養価差異
±5%
以内

事務業務の
簡素化で
負荷軽減

「ナリコマ式サポート」が無料でついてくる

ナリコマのクックチルなら、給食運営の課題解決までの道筋が見えやすい！

お気軽にご相談ください。

詳しくは

株式会社 **ナリコマ** エンタープライズ

〒532-0004 大阪府大阪市淀川区西宮原1-4-2 ナリコマHD新大阪ビル
TEL:06-6396-8020 FAX:06-6396-8340



イベント情報 掲示板

さる、7月26～27日、千代田区学術総合センター一橋講堂において第25回日本健康・栄養システム学会研究大会『栄養の力で国民を幸せにしよう』が全面対面方式で大成功を収めることができました。東京大学医学系研究科侵襲代謝謝・手術医学講座教授の深柄和彦大会長以下参加者の皆様に深謝です。来年度の26回大会は6月20～21日、神奈川県立保健福祉大学です。今から予定してください。老体の事務局長も参加しますので会いにきてください。

第63回日本医療・病院管理学会
学術総会10月4日(土)、5日(日)、
東京にて、ぜひご参加ください

テーマは「身近にある医療データを医療・病院管理に活かす」(学術総会長/伏見清秀・東京科学大学大学院教授)です。第一線のエキスパートによる講演、セミナーなど多くのプログラムを企画しました。

【日時】10月4日(土)・5日(日)

【会場】東京科学大学湯島キャンパス(文京区湯島1-5-45)

【参加申込】事前:9月1日(月)まで、通常申込は当日まで可能。

詳細は <https://procomu.jp/jsha2025/index.html>

【プログラム(仮)】学術総会長講

ストレスチェック義務化 すべての事業所が対象になります！



ピーラス
ストレスチェックPRAS
⇒ お問合せください。

mmsjp.info

株式会社医療産業研究所
東京都渋谷区代々木 2-16-1 ☎03-5351-3511

🤝 ストレスチェック事業 21年の実績

大切な
スタッフさまの
心の健康を
守ります。

第24回日本医療経営学会学術集会
総会参加申込開始のお知らせ

【テーマ】新しい病院経営のゆくえはー時代の変遷を見据えてー

演…DPCを基盤とした医療データの利活用と将来への期待/伏見清秀(前掲)、招待講演…医療政策の背景と方向性/迫井正深(厚生労働省)、特別講演1…持続可能な病院経営の実現に向けて/斐英洙(慶應義塾大学大学院)、特別講演2…データでみる地域医療構想と人員配置/石川光一(国際医療福祉大学)、ほか

会長…中林 梓(株式会社ASK 梓診療報酬研究所所長)、実行委員長…大城辰美(社会医療法人社団カレスサッポロ理事長)
【日時】11月7日(金)～8日(土)(現地+WEBのハイブリッド開催)
【会場】カレス記念病院3階カレスホール(札幌市東区北6条東3丁目1-1)
【参加申込】事前…10月20日(月)まで、現地参加は定員150名の先着順、定員に達していない場合限り、当日参加受付可能。
<https://jaha-sapporo.com/>
皆様のご参加お待ちしております。

人材募集サポートのご案内

eM-Career

【エムキャリア】

あなたの医療キャリアを応援し、
未来を築く医療者の味方でありたい

貴院のニーズに沿った
医療従事者のご紹介を
完全成功報酬型で
ご提供します。

eM-Career

検索

お問い合わせはこちら

連絡先: ☎03-5614-0961 ✉kanri@medi-ax.jp

サイトURL: <https://em-career.jp/>

所在地: 〒103-0002 東京都中央区日本橋馬喰町1-8-8 森忠ビル4F
コーポレートサイトURL: <http://medi-ax.jp/>



MEDI-AX

医療機関向け総合コンサルタントサービス
株式会社メディアックス